



かいほつ

71号

學界小
四軍 藤倉 弓子

▲ なかよしゲーム「力を合わせて」 (新香山・常磐ブロック交流会)

岡崎市現職研修委員会

特別支援教育部会

平成26年12月1日発行



教育と福祉をつなぐこと

矢作南小学校長

山口 和雄

私たち大人にとって、目の前の「この子」を正面に据えて、その将来を見通し、育てていくことはとても大切なことです。

「今、私の目の前にいるこの子は、将来どんな仕事をして、どんな生活をしていくのだろうか。」

どの学級の子たちでも同じでしょうが、特別な支援を必要とする子たちが将来困ることなく、独り立ちできるようにすることは、切実な教育的課題だといえます。しかし、私たちは目の前の課題に追われ、その指導に苦慮することは多くても、その子たちの将来を考え、見通すことはなかなかできません。

今年の夏、子どもたちの卒業後の姿を考えるチャンスをいただきました。舞木町にある社会福祉法人「愛恵協会」が参観の機会を用意してくださったのです。市内教員の研修でしたが、参加希望者が百人近くになり、調整を必要とするほど、好評でした。この研修は、私たち教員に今までにないものをもたらしてくれました。当日の感想をまとめたアンケート結果の抜点を紹介します。

「見学しながら、自分の担当している生徒のことを思い浮かべていました。」

「卒業生が働く様子も見ることができ、日頃、支援している子どもの将来像をイメージすることにもつながると思いました。」

「自分たちの仕事は、彼ら（障がい者）の人生に大きく関わる仕事だということをおぼろげに自覚しました。」

就労を希望する方々の訓練や実際に働く場の提供には、たいへんな工夫が必要でしょう。見学後の説明では「この人は何が得意で、何がしたいのかを見極め、その人に合った作業は何かを見つけている」と、職員の方が日々のご苦労を話されていました。

私は、職員の方が「情報を共有して、教育と福祉のつなぎ目となりたい」とおっしゃっていたことが印象に残りました。



▲ はい！ポーズ

友達がたくさんできた交流会
美川ブロック
生平小 四年 杉山 結衣

私たちのブロックは、少年自然の家に集まって交流会をやりました。午前中はオリエンテーリングをして、私はAグループでした。六つのポイントを見つけ、お菓子をもらうことができてとてもうれしかったです。

豚汁作りでは、お母さんと大根を切りました。同じグループの中学生のお姉さんと仲良しになりました。アスレチックは、ターザンロープが一番楽しかったです。美合小学校の子たちと一緒に遊べてとてもうれしかったです。

子どもと親の集い ブロック交流会



▲ 流しそうめん

楽しかったブロック交流会 矢作ブロック

今年 三年 奥村 友香

今年の交流会でやったゲームは「ペットボトルキャップ入れ」と「まとあてゲーム」です。私は「まとあてゲーム」のメンバーだったので、いろいろ大変でした。ニビンゴで景品だったけど、なかなかニビンゴにならなかったのも、途中からニビンゴにしました。弟も来て、友達と一緒に流しそうめんとかき氷を食べました。かき氷シロップは、いろいろあったので、みんな楽しそうに食べていました。

今年の交流会は、昨年よりも楽しくできてよかったです。小学生の子が「楽しかったよ」と言ってくれたのでよかったです。

来年の交流会も手伝いに行きたいです。



春日台職業訓練校の見学会に参加して

六北中 教諭 松村 知代三

六月十六日、春日井市にある春日台職業訓練校の見学会に参加しました。今年も、例年以上に多くの生徒と保護者、教師が参加し、進路選択に向けての意識の高さを感じました。

春日台訓練校では、作業実習による技能訓練や寮生活を通じての生活訓練を中心に見学をしました。

訓練科目は、機械科、縫製科、木工科、陶磁器科、紙器製造科の五科があり、社会自立へ向けて、どの科も能力に適應したきめ細やかな職業訓練がなされています。訓練生たちが、任された作業に黙々と取り組み、基本的な技術の取得に励む姿が印象的でした。

また、訓練生が生活している寮の見学もさせていただきました。どの部屋もきちんと整理整頓がなされており、生活訓練を通してのルールの遵守や集団生活を通しての自主性、協調性、責任感を養っている環境が整っていることを感じました。

一人一人の能力に応じた適切な支援こそが、社会自立に結びつくことを改めて感じる事ができた見学会でした。

職場体験

大変だけれど楽しかった職場体験
甲山中 二年 伊奈 遙香

私は、十月二十一日から二日間、「ぼちプラザ岡崎店」へ職場体験に行きました。犬猫の順番にえさをあげたり、ゲージや小屋のそうじをしたりしました。犬のシャンプーもやらせてもらいました。人間と同じでシャンプーの後にリンスをすることや、水が鼻にかかるとおぼれてしまうことを知り、びっくりしました。仕事は、そうじの時間が一番長かったです。ゲージを開けるたびに逃げ出さないように注意したり、ドアで犬や猫の足をはさまないように気をつけたりしました。さわると少し暴れてしまう子猫もいて大変でしたが、好きな動物の世話ができてうれしかったです。

今回の体験で、将来トリマーになりたいと、より強く思いました。



▲ 使ったらすぐ洗います



はじめての社会見学

広幡小 五年 宮内 大輝

ぼくは、はじめて社会見学に参加しました。岡崎ライオンズクラブのみなさんに招待してもらって、たくさんの方達といっしょに、大きなバスに乗って、東山動物園に行きました。

東山動物園では、ゾウやキリン、チンパンジーやジャガー、いろいろな種類の鳥などを見ました。自然動物館では、ヘビやトカゲなども見る事ができました。ぼくは、オランウータンを見て、わらってしまいました。さむかったのか、はずかしかったのか、だんボールを頭からかぶっていたからです。

屋根のあるところで、おべんとうを食べました。ハトがねらうので、取られないか、どきどきしたけど、みんなで食べたおべんとうは、とてもおいしかったです。楽しい社会見学でした。岡崎ライオンズクラブのみなさん、本当にありがとうございます。

来年はどこに行けるか、とても楽しみです。

心に残る東山動物園

岡崎小 六年 小田 桃加

九月十九日に、岡崎ライオンズクラブのみなさんのおかげで、東山動物園へ行くことができました。

一番心に残った動物は、アザラシです。見に行ったときに、ねていたので少しさみしかったですけど、アザラシのねている顔がとてもかわいかったです。

二番目に私がかわいいなあと思ったのは、コアラです。初めてコアラが起きているところを見ることができてよかったなあと思いました。三番目にかわいいと思ったのが、キリンです。ちょうど飼育係の人が、キリンにえさをやってるところを見ることができて運がよかったですと思いました。

本当に楽しい社会見学でした。今年も私たちを招待してください、ありがとうございます。



▲ ゾウの足って、でっかいなあ

学級紹介

ソーシャルスキルかるた取り

羽根小 教諭 近藤 昭厚

「挨拶は、心と心をつなぐかぎ」「つなぐかぎ」

「力わく君の声援、頑張って」「頑張って」

今年度、五・六組では、「五色ソーシャルスキルかるた」を使って、

子どもたちが遊びながら必要なソーシャルスキル（社会生活技能）を身に付けていく活動を行っています。

教師が読み上げた札を大きな声で、「はい」と言って取り、取った

絵札に書いてある言葉を復唱して、確認するというものです。

授業が終わった後、A児が、「机から離れるときは椅子入れる」と言

いながら、椅子を入れている姿を見て、みんな笑顔になりました。



▲ ソーシャルスキルかるた取り



▲ スポーツフェスタの開会式

スポーツフェスタで大活躍

北中 教諭 川口 典子

九月二十日にスポーツフェスタ(体育大会)が行われました。八組、九組の生徒六名がそれぞれの交流学級に入って、入場行進からハンドボール投げや混成リレーなどの種目、全男全女、岡崎の舞、応援合戦など、すべてに参加し、力の限り頑張りました。

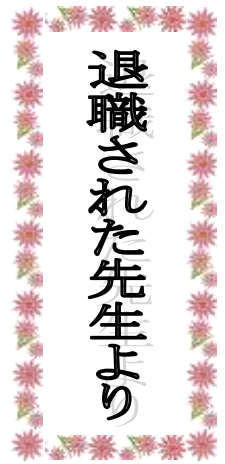
応援合戦のダンスの振りを覚えるのは大変でしたが、上級生や交流学級の友達がいるいと教えてくれました。

今まではしゃべったことのない人とも話すことができました、ハンドボール投げで最下位だったけど「よく頑張ったね」

と同年年の選手が褒めてくれたりと、とても楽しいスポーツフェスタになりました。

来年もソーランをしっかりと覚え、踊ることでしょう。

来年もソーランをしっかりと覚え、踊ることでしょう。



退職された先生より

ありがとう、楽しかった五年間
前六南小 教諭 榊原 美佐子

今までに、低、中学年の担任ばかりだった私が、特別支援学級担任になって、三月に四人の六年生の子たちを中学へ送ることができました。私も、一緒に卒業するような気持ちで、定年退職を迎えることができて本当に幸せでした。

最後の五年間、ちよūd十人の子たちと、ゆつくり楽しく笑って生活することができました。岡崎ライオンズクラブの社会見学や、ブロック交流会など、校外で他の学校の先生や子どもたちと仲良くできる行事も楽しみました。これからも、十人の子たちを見守っていききたいと思います。



▲ 卒業式の後で



かいほつ塾に参加して

男川小 教諭 杉浦 正明

特別支援学級の担任になって三年目。毎日手探りで、子どもと一緒に学んでいます。

特別支援教育に関わるまでは詳しくは知らなかった「かいほつ塾」。担任を始めることになった時に、一緒に特別支援学級をやっていた主任

の先生に紹介してもらい、参加するようにになりました。参加前は、かいほつ塾という名前からどんな内容の研修会か想像が付きませんでした。しかし、参加してみると、研修内容は、個別の指導計画の作成、知能テストの教育的活用方法、子どもたちの卒業後の進路および進路指導など、日々の実践に役立つものばかり

でした。自分だけでは、なかなか学ぶことや知ることが難しい内容が研修内容になっています。また、一緒に研修会に参加している他校の先生方とも情報交換ができました。

今後、この研修会で学んだことを生かして頑張っていきたいと思えます。



魅力ある学校・学級づくり

奥殿小 教諭 阿路川 昌宏

八月八日に田原市文化会館で開催されました。午前中は、前愛知県特別支援教育研究協議会会長である間瀬勝哉氏の講演がありました。子どもとともに楽しく学ぶことが大切であることを教えていただきました。午後は第一分科会に参加しました。

「残像効果」や「やる気サイクル」といった手立てを用い、子どもたちの不安を取り除き、安心して楽しく生活することができるよう学校・学級を目指した取り組みについて提案してきました。



▲ やる気サイクル



愛恵協会の見学

常磐小 教諭 鈴木 明美

七月三十・三十一日に、社会福祉法人「愛恵協会」の見学会が行われました。特別支援教育に携わる者にとって、子どもたちの就労は最大の関心事です。このため参加希望が多く、二日間に分けて行われました。

愛恵協会は、訓練や介護など大きく四つの部門に分かれ、たくさんの方の施設があります。利用者も、日常生活の介護が中心の方から、一般企業への就労を目指した職業訓練をする方までさまざまです。

今回は、その中から、多機能型事業所「てんじん」と「愛恵ワークス」の二か所で、自動車部品の組み付け、緩衝材袋詰め、軍手仕上げなどの作業や、生活介護の様子を見学させていただきました。その後、愛恵協会の沿革や福祉行政の移り変わりについてお話を聞きました。

福祉サービスに関する複雑な用語に戸惑ったり、職員の方の、利用者の方への礼儀正しい語りかけに感心したりして、視野を広げるよい機会となりました。